

しょう しん しょう めい 笑進笑明

<校訓>



・学ぶ力
・働く力
・正す力

平群中だより
編集者:吉迫隆志
NO.6
令和5年7月20日

いよいよ、夏休み!



暑い夏をおもう存分 楽しもう!! ~Check & Action~



1学期が終わりました。みんなにとって、今学期はどんな学期でしたか?振り返ってみてどうでしたか?!“あっ,,という間だった人、結構長かった…”という人、それぞれ感じ方は違うかもしれませんね。少し、私を感じたことお話しします。

まずは「3年生」、様々な場面で3年生としての自覚というか風格、そして大人に近づいてきたなあという成長ぶりを感じています。修学旅行も一緒に行きましたが、楽しむ姿勢、優しい笑顔、協力して時間を守るなど…それ以後の学校生活でも、教室や部活動、委員会等々で会話を交わしてきました。その度に”気持ちのいい会話,,だなんて感じる事が度々ありました。「なにかしら人と関わろう」という雰囲気が素晴らしい!

続いて「2年生」、中学生となつての一年間でやっぱり成長するなあ(とても良い意味で)しっかり感が身についてきたなと思っています。気持ちのいい挨拶…まさに「継続は力なり」、朝を迎える元気の源、何よりのエネルギー源です。「ゆかたの着方教室」でも感じましたが、何事にも一生懸命に意欲をもって取り組む姿、そんな“目,,をもつことは、とても大切なことですね。講師の先生方からも「とても楽しかったあ」とお褒めの言葉いただきましたよ。君たちへの評価がこういう場面にあられることを嬉しく受け取っています。

そして「1年生」、中学校での生活はいかがなものですか?!初めて出会った先生やクラス等の仲間とは上手にやっていますか?友だちの数も増えたかな?時折、授業中の様子を見に行ったり、掃除や給食の様子を見ていて、すっかり中学校での生活に慣れてきたなあと感じています。今は好奇心がとても旺盛な時期です。意欲的に取り組むことは良いことです。とても元気で活発な様子は嬉しいのですが…節度をわきまえ、全体のことも考えながら発言・行動することは大切です!!

さて、みなさんタイトルにある”Check(チェック),,とは…「評価」や「検証」です。

どの学年も成長を感じることは述べましたが、全てに満足しているわけではありません。様々な場面で気になる人も実際には見かけます。集団で生活を営むのが学校という場所です。

自分を律する心(あきらめない心、戒める心)、他人のことを考える力など「社会で生き抜いていく上で必要となる心」の成長ぶりを自分自身でしっかり振り返ってみましょう。

前半でふれたように全体としての成長ぶりは感じられます。しかし、他人を傷つけてしまったり、つらい思いにさせてしまったりする行動や言動(SNSなども含む)はないでしょうか。授業中やその他の活動でも周りの人が迷惑だなと感じる態度や行動をとったりしていませんか?

”Action(アクション)とは「改善」という意味です。“Check,,した内容や事がらを心にとめ、くい改めるのが改善です。「もっと良くしよう」・「ずっと大切にしていこう」…平中生としての自覚をもって!

三者懇談の中で担任の先生やご家族の人と一緒に話をして感じたことをもとに「一人一人の取り組み」があるはずで。 “今やるべきこと,, にしっかりと目を向けて頑張りましょう。

「Check&Action」を実行して、学習面だけでなく、部活動や趣味(習い事)やボランティアなど…『暑い夏を思いっきりenjoy』しましょう!

もう一度、“県総体,, “コンクール,, ”夏の取組,, 『完全燃焼するぞ!』



3年生、絶対に悔いを残すな!きっとここ一番、今しかない、という場面が必ずあります。とにかく勝負にもこだわってくださいね。決して諦めない!! 自分みんなの目標をつかみとって欲しい。これまでやってきた全てを結集させなさい!!

2年生、1年生、全員の力が必要です。学年関係なく、試合や演奏、コンクール、作品等に出る、参加する、しないではなく「平群中のチーム・部」として全員でたたかってください! 君たちの声援、パワーが先輩の後押し、大きな力となります。『健闘を祈ります。 “がんばれ!!”』



保護者の皆さま、ご理解・ご協力ありがとうございました。

明日より長期休業に入るにあたり、私たちおとなは、子どもの安全をどの様にして守っていくかが、SNSのトラブルなどを含め多種多様になり、これまで以上に気を配らなくてはなりません。そこで、以前こんな話を聞いた事を思い出しました。一般的な傾向として日本の保護者は子どもを守るために矢面に立って子どもから危険を排除しようとする事が多い。一方、アメリカの保護者は子どもが危険から自分の身を守るような力を身につけさせることに注力する事が多いというのです。四六時中、おとなが子どもを守ろうとしても限界があります。大切なことは、子どもに「自分のことは自分でも守る」ことを意識させ、その力を身に付けさせることも必要ではないかということです。考え方や方法は様々ありますが、「家庭・学校・地域」でかけがえのない子どもたちの「命」を守ることに変わりはありません。学校でも終業式の際に指導をしましたが、身の回りの危険からわが身を守るよう、ご家庭でもご指導をよろしく願います。